第3章
子育て支援の実態と課題

#### はじめに

子育でをめぐる環境が変化し、子育でを社会全体で支えていくことが求められるなか、子育で支援事業が全国で展開されています。現在、地域子育で支援拠点事業は全国で5,199か所、そのうちセンター型は3,477か所(平成21年度)で実施されています。その内容は各地域の実情に合わせ、実践を積み重ねながら、支援事業としての役割や機能を模索している状態と言えます。

モデル事業から17年を経過した現在、子育て支援の実態と課題を明らかにし、さらに質の高い支援を考え出す転換期でもあります。また利用者のニーズや支援者の実情をふまえながら、人材育成を充実させていくことも課題となります。

そこで、現在子育で支援センターを利用している保護者と支援者にご協力いただき、アンケート調査を実施しましたので結果を報告します。

## 1. 調査目的

- 子育て支援センターの利用者を対象に満足度やニーズを聞き、今後の子育て支援の活動内容の向上に役立てる。
- 子育て支援センターの支援者を対象に、利用状況、活動内容、支援者としての課題等を聞き、子育て支援の新たな課題を明らかにする。
- 利用者と支援者の実情を踏まえ、子育て支援の課題と人材育成の方向を検討し、今後の支援活動に役立てる資料として活用する。

## 2. 調査方法

### 【利用者】

平成22年7月、熊本(山東保育園)、山口(勝山保育園)、富山(常盤台保育園)、千葉(柏さかさい保育園)、東京(至誠第二保育園)の子育で支援センター利用者。各園20名、合計100名。本調査研究委員である各施設長にお願いし、センター利用者へ調査票を配布、回収しました。

## 【支援者】

平成22年8月~11月富山子育て支援センター連絡協議会研修会(8月31日)参加者 約150名、熊本第3回子育て支援センター九州セミナー(11月18~19日)参加者 約200名、研修参加者全員に調査票を配布し、研修終了後回収しました。

## 3. 調査結果と考察

## (1) 保護者アンケートの結果と考察

## ①利用期間と利用回数

各施設の利用者20名からの回答は表 1 のとおりで、全体としては 6 ヶ月未満の者から 3 年以上利用している者に分散しています(図 1)。子育て支援センターを週にどのくらい利用しているかという回答では、どの施設でも週1~2回の頻度で利用していることがわかります(表 2、図 2)。

表1 子育て支援センターの利用期間

利用期間	熊本	山口	富山	千葉	東京	合計
6ヶ月未満	9	5	8	9	3	34
6ヶ月~1年未満	4	0	8	1	2	15
1~3年未満	4	12	3	6	7	32
3年以上	3	3	1	4	8	19
合計	20	20	20	20	20	100

表2 子育て支援センターの週の利用回数

週の利用数	富山	山口	富山	千葉	東京	合計
0~1回	11	16	9	8	14	58
2回	6	4	5	8	5	28
3回	3	0	3	0	1	7
4回以上	0	0	3	3	0	6
合計	20	20	20	19	20	99

図1 センター利用期間

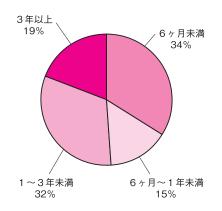
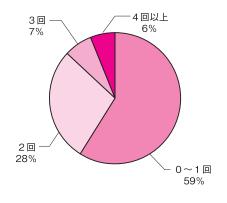


図2 週の利用回数



## ②子育て支援センターに求めること

利用者はセンターに、「親子で楽しむ遊びや行事」や「子育てについての情報」を求めている者が最も多く、「施設・活動の情報」「子育て相談」を提供される場として「とても必要」と答えています。次に「親同士の交流」や「子育て講座」を求めています。それに対して、センターの「設備や遊具」「自主サークルの支援」「訪問支援」などを求めている者は少ないということがわかります(図3)。

図4の県別では、ほとんどの項目で大きな差はありませんが、「設備や遊具」「自主サークルの支援」の項目で施設によって若干の違いが見られます。

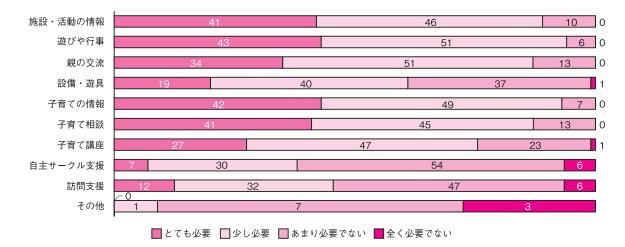
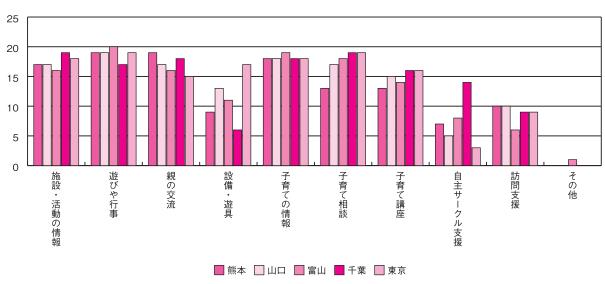


図3 センターに求めること





子育て支援センターに求めることでその他の記述は少数ですが、その内容は表3のとおりです。さらに幅広い情報提供や開所の日や時間を増やしてほしいという内容がありました。

表3 子育て支援センターに求めること(その他のまとめ)

			ĺ
センターの情報開示	3	駐車場の設置	1
手作り料理などの食育	3	保育士の増員	1
病院などの情報提供	3	父親支援のプログラム	1
土日の開所	3	イベントを増やす	1
開所時間の延長	2	訪問支援	1
兄弟の参加 (夏休みなど)	2		

## 「その他」記述内容の一部

- 子育て支援センターについて知らない人がまだたくさんいるので幅広い情報提供が必要だと思う。
- 一日中開放している場所があると嬉しいです。子どもに合わせて利用できるので。
- 病気やけがをした時の対処に良い病院などを聞きたい。
- どうしても家の近所に支援センターがない人や子どもが小さくて出かけられない人のため に、訪問支援があると助かります。

## ③センターを利用した感想(記述)

全体の感想・意見では、子育て支援センターを利用したことで「子どもにとって良かった」という感想が最も多くありました。次に「親同士の交流」をすることで悩みを共有したり、友達ができたりしたことが良かったという感想があります。自分の子どもが家庭ではできない経験をしたり、他の子どもと遊んでいる様子を見て安心したり喜びを感じていることがわかります。また保育士に相談したり他の母親との交流を通して、視野が広がり子育てにゆとりを持てるようになったという感想が多くありました(表 4)。

表 4 子育で支援センターを利用した感想・意見

子どもにとって良かった(経験・友達など)	39
親同士の交流、悩みの共有	30
活動内容や遊びの環境がよい	15
気軽に相談できる	13
講座や情報交換	10
安心して遊ばせる場	9
気分転換、リフレッシュ	7

### 「感想」記述内容の一部

- 始めの一歩を出すのに少し勇気がいりましたが、支援センターに行き出してから、親子共々 生活が変わりました。友達もたくさんできました。
- いろいろな方と交流でき、子どもも楽しそうに遊んでいるので良かったです。また自分だけだと出来ないイベントなどもあるので、子どもが楽しめてよいと思います。
- 同じ年齢の友達が増えたことはすごく良かったです。
- 子どもと2人だと体験できないことを体験できるのでとても助かります。
- 人見知りしがちな子でしたが、どんどん人に慣れて明るく元気になったので、利用して良かったと思っています。ありがとうございます。
- 子どもたちだけでなく、親もママ友達ができてよかった。小さなことでも相談にのってくれるのでうれしい。
- 午前中に利用していて、おもちゃで遊んだり、手遊びなどをしてたくさん遊べ、午後にはしっかりお昼寝してくれて、生活リズムが作れたことが良い。
- 色々な情報を交換出来たりしてとても参考になります。気分転換になります。子どもにとっても刺激にもなるみたいです。
- 子どもがどんな遊具に興味があるのか知ることができてよかった。センターの職員の方に 子育ての話を聞いてもらって、また励ましてくれてうれしかった。

## (2) 支援者アンケートの結果と考察

平成22年8月26日「富山県子育て支援センター連絡協議会研修会」において調査票を配布し、研修後回収しました。また11月18・19日に行われた「第3回子育て支援センター九州セミナー」において配布し研修終了後回収した結果は表5のとおりです。

 配布数(人)
 回収数(人)
 回収率(%)

 富山
 150
 101
 67%

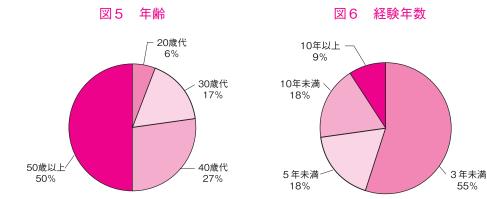
 熊本
 210
 62
 30%

 合計
 360
 163
 45%

表5 アンケート回収率

#### ①回答者の属性

回答者の半数は50歳以上で、子育て支援の経験年数は3年未満という者が半数以上となっています(図5、図6)。



アンケートの回答者である子育て支援センターに勤務している職員は、施設長が26%、正規職員が43%、パート・その他は31%です(② 7)。

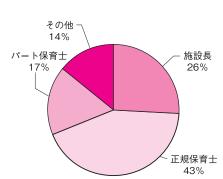


図7 勤務形態

# ②子育て支援センターの利用状況と活動内容

子育て支援センターの利用状況は、1日平均10人未満か10~30人未満(図8)で、活動内容は、図9のとおりです。「親子で楽しむ活動や行事」「子育て相談」が最も多く、「子育て講座」や「園庭開放」もほとんどの施設が行っています。「親支援プログラム」や「自主サークル支援」を行っている所は少ない現状です。

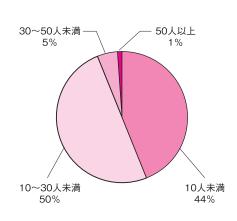


図8 利用状況(1日平均)

200 150 100 50 園庭開放 供 親子活動 相談 流 講座 クラムル支援

図9 活動内容

## その他の活動内容

保育園行事への参加、在園児とのふれあい活動、保育参観、出前保育、小学生との交流会、中学生との交流会、一時預かり、身体測定・健康相談・歯科相談、障害児親子サークル、双子の親子サークル、高齢者との合同活動、ボランティア育成講座、子育て困難家庭への訪問、子育てサロン

## ③活動状況と利用状況について

現在の子育て支援活動について支援者はどのように感じているのかについて、「不十分な点について改善していきたい」は75%で、「やや不十分であるが今のままでよい」は16%、「十分である」は3%となっています。ほとんどの支援者が現状では不十分だと感じており、改善していく必要を感じています(図10)。利用状況については、「利用者が少ない」22%、「利用者に偏りがある」は48%で、ほとんどの支援者が現在の利用状況に問題を感じていることがわかります(図11)。

図10 活動状況について

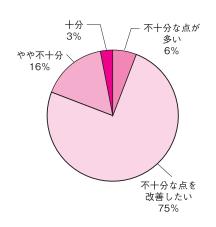
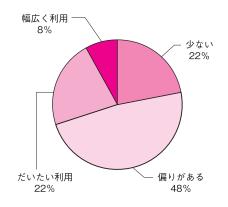


図11 利用状況について



支援活動が不十分、利用者が少ない・偏りがあると答えた理由として、子育て支援センターの「PRが不足している」「人的・物的環境が不十分」という内容の記述が多くありました。次に「他の子育て支援センターやサークルに分散している」や「地域に子どもが少ない」という理由を挙げています。地域的には交通の便が悪く、車でないと来所が難しいという意見もありました(表6)。

表6 利用状況が「少ない」「偏りがある」の理由(記述のまとめ)

理由	人数
P R 不足	35
人的・物的環境の不足	24
他のセンター、サークルがある	13
地域に子どもが少ない	13
駐車場不足・交通の不便	8
利用者の性格や家庭状況等	4
対象者を把握していない	3
開所日が少ない	2
その他	3

## 記述内容の一部

- 近くに他の支援センターや親子サークル等々をしている保育園や児童館がある。親子は活動場所を選んでいる。
- 待っている形のセンターなので、利用数に偏りがある。外へ出ていくことも必要だと感じている。
- 本当に支援が必要な方が参加できない環境にある。車がない等家から出られない状況がある。
- 私たち自身が家にこもっているような家庭(本当に支援が必要な方)を回ることなどできないのでつらいのだが、そういう家庭の方が支援センターにきてくれていない。実際に子どもさんのいる家庭などの自宅を直接回りたい。そういうことができないので、それが原因だと思う。

## ④現在の支援で問題あるいは困難と感じていること

支援者が現在子育で支援を実施しているなかで、問題あるいは困難を「とても感じる」としたのは、「困難ケースへの対応」が最も多く、次に「関係機関との連携」となっています。また支援者としての「技術や専門知識が不十分」と感じている者も多く、「利用者のニーズに合っていない」「マンネリ化している」と感じている者は少ないということがわかります(図12)。

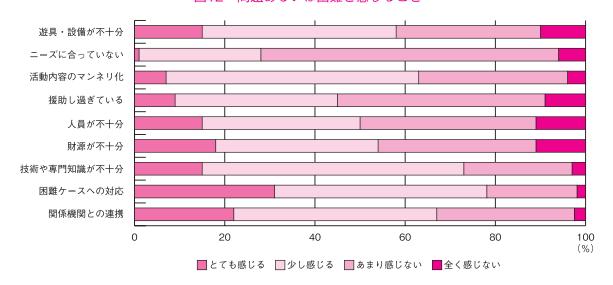


図12 問題あるいは困難と感じること

記述のなかでは、人員不足や場所の問題、財源に限りがある等の具体的な現状が多く書かれていました。また保育所内での支援センターと言うことで、職員全体の共通理解が重要であると感じるという意見もありました。利用者の様々なニーズに応えていき、困難ケースにも対応していくために支援者の知識や技術を高めていきたいという意見もありました(表7)。

人員・場所・財源等	15
職員の共通理解	5
困難ケース	4
知識・技術不足	3
地域的背景 (子どもが少ないなど)	3
その他	4

表7 支援者にとって困難・問題に思うこと(記述)

#### 記述内容の一部

- 支援センターの在り方を職員全員が十分に理解できていないのではないかと思う。そのために場所や人材をうまく使えていないかもしれない
- 子育て支援センターを利用することができない親子にどのような働き掛けができるのか、利 用できない親子の方が課題を抱えている場合が多いのではないか
- 支援が必要なのに時間やお金の余裕がない。利用者の現状を聞いても解決にはならず、たまにストレス発散のための話を聞くしかできない(困難ケース)
- 支援者に専門知識や技術が不足しているため、ネットワークづくりや活動の幅があまり広がらない

## ⑤利用者がセンターに求めていること

支援者が考える利用者のニーズとしては、「親同士の交流」「訪問支援」がとても必要と感じています。また「施設の存在や活動内容の情報提供」「子育て情報」「子育て相談」なども必要と考えている者が多いことがわかります(図13)。訪問支援については、記述のなかには「本当に必要な人に支援が届いていない」のでどのようにアプローチしていくかを課題にしている支援者がいます。

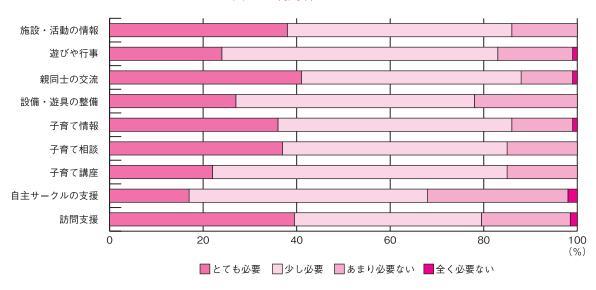


図13 利用者のニーズ

利用者のニーズを利用者と支援者の比較(図14)でみると、支援者が最も必要と考えている「親の交流」や「訪問支援」に対して、利用者は「親子で楽しむ遊びや行事」「子育ての情報」を最も必要としていることがわかります。利用者ニーズと支援者が考えるニーズに違いがある項目として、「親子の遊びや行事」を利用者は「とても必要」としていますが支援者は少なく、「施設の設備や遊具」「訪問支援」について支援者は「とても必要」としていますが、利用者ニーズとしては少ないということがわかります。

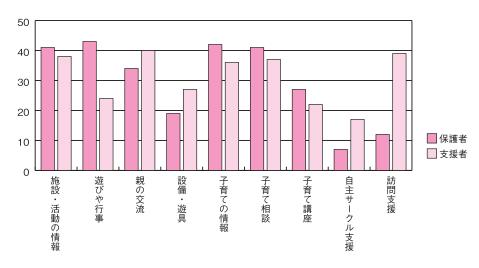


図 14 利用ニーズ 保護者と支援者の比較

### 記述内容の一部(支援者)

- センターに足を運ばない親子へのアプローチの仕方
- 親子で遊べるスペース (施設、公園など)、自由な時間に自由に利用できる場所 (室内外) が必要 (土日祝日利用可など)
- センターを利用されていない人にどのようにセンターの活動内容を知ってもらい足を運ん でもらうか。
- 現在センターに来る人は、それほど支援が必要ではないと思う。本当に支援が必要だと思う人は家にこもったまま外には出られない人だと思う。訪問支援することで利用しやすくなると思う。

### ⑥支援者にとっての課題

支援者の課題としてはどの項目についても「とても必要」あるいは「少し必要」と答えています。特に「技術や知識を高める研修」として「カウンセリングやソーシャルワーク」「虐待対応」を必要としていることがわかります。また、「関係機関との連携」や「ネットワークづくり」の必要性も感じています(図15)。これは支援者が支援活動を実践していくなかで感じる問題や課題に対して、積極的に取り組んでいることがわかります。さらに支援していく自分たちへの相談や指導を求めていることもわかります。記述の内容でも、支援の質や専門性の向上を求めている意見が多く、地域とのつながりやネットワークづくりについて記しています(表8)。

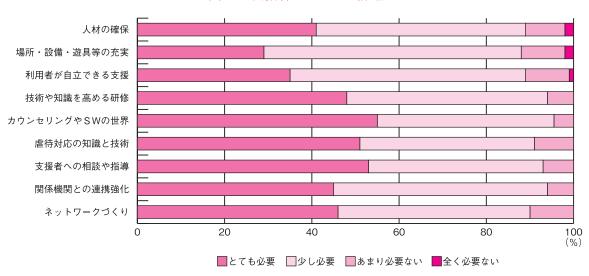


図15 支援者にとっての課題

表8 支援者の課題(記述)

支援の質や専門性の向上	16
ネットワークづくり	10
地域とのつながり・連携	8
子育て支援の共通理解	3
その他	3

#### 記述内容の一部

- 待ち受け型の子育て支援だけではよくないと思いました。またカウンセリングなどの勉強 も重要だということを感じました。
- 親が自分の力で子育てに向き合っていけるように支援していくこと・より具体的な方法を 伝えていくことが必要。
- 国、県、市からの支援も必要と思われる。それぞれの市町村によっても差がある。保育園 だけでは希望しても実効が難しい。
- お父さんが気軽に入れるようなセンターづくり、シングルマザー、父子家庭への支援、専門機関、地域との連携。
- 子育てに関する諸機関とのネットワークづくり。今はばらばらで独自に行っている。子育 て支援の共通理解が必要。
- 地域の方々の人材、ボランティア活動を生かした活動の展開を手掛けていきたい。
- 虐待対応など専門機関との連携が必要不可欠のため、子育て支援者としては機関とつながりがあればいいのではないかと思う。一人でたくさんの専門的知識や技術を身につけるのは難しいことですし、その為に専門家の方々がおられるのですから、私たちは繋ぐことが必要。

### ⑦センター事業の成果として感じること

センター事業の成果としては、保護者にとって「とてもよかった」と感じている人が多くいます。また子どもにとっても支援者にとってもほとんどの支援者が「とても」あるいは「ある程度」よかったと感じていることがわかります(図16)。

図16 支援の成果

保護者にとって

子どもにとって

支援者にとって

し

20 40 60 80 100 120 140 160

■とてもよい □ある程度よい □あまりよくない ■全くよくない

保護者にとって良かった思う具体的な内容では、「親同士の交流・友達づくり」に関することが最も多く記されていました。相談、ストレス解消、リフレッシュ、情報交換、子どもの理解など保護者にとって良い成果があることを実感していることがわかります(表9)。

表9 保護者にとってよかったこと(記述)

親同士の交流・友達づくり	52
気軽に相談できる	30
ストレスや不安の解消・リフレッシュ	26
情報交換	25
子どもの理解・親子関係の改善	20
その他	2

### 記述の一部

- 友達ができ、お母さんが明るくなり、子育てを楽しむようになった。息抜きができ、ストレスを抱え込まず、来所することで気分転換できる。
- 仲間づくりが出来ていてリフレッシュしている。不安の解消につながっている。親がわが 子を知る発見の機会となっている。
- センターに来ることによって友達ができいろいろな情報交換ができる。担当者や他のお母 さんに相談できる。広い所で子どもを安心して遊ばせることができる。
- コミュニケーションの場、同世代の子を持つ親としての関係作りに役立っている、育児に 対する不安や相談ができる場所となっている。
- 親同士顔見知りになり友達づくりができる。お互い育児の悩みを相談し合ったり情報交換 もしている。子どもとのコミュニケーションがとれる。気分転換になっている。転入者は 地域の情報を得ることができ、友達もできる。遊びの幅が広がる。
- 子育ての疲れ、悩み等相談でき、子育て仲間と出会う場所がある。また子育てについての 情報はもちろん親にとっての学びの場がたくさんある。

子どもにとって良かったと思う内容では、「子ども同士の交流」や「豊かな遊具、教材、安全な遊びの環境」があることで、遊びや活動の経験が広がり、人間関係が広がっていくことを多く挙げています。センターでの経験が子どもの成長にとって良い成果があると感じていることがわかります(表10)。

表10 子どもにとってよかったこと(記述)

子ども同士の交流	54
豊かな遊具・教材、安全な遊びの環境	31
遊びや活動の経験が広がる	30
親子関係が良好になる	20
人間関係が広がる (親以外の大人や高齢者)	7
その他	6

支援者にとって良かったと思う内容は、「保護者対応の学びやスキルアップ」になっているという意見が多くあり、利用者に喜ばれる体験を通して、子育ての理解が深まり、支援活動に意識の変化があったことを述べています。また他機関や地域とのつながりが、自分たちにとってもメリットになることを感じている支援者もいます(表11)。

#### 記述の一部

- 同年齢の仲間とのふれあい、関わりが持てる。子どもが友達の様子を見て近づいたり一緒 に真似をして遊んだりする。
- 家とは違った空間でのびのびと遊べる。母親がリフレッシュすることで子どもとの関係が 良くなる。
- 子ども同士もトラブルや遊びの中から刺激を受けている。支援センターに通うことが生活 リズムの一部になっている。
- 職員の遊びの提供により親子の触れ合いが濃い機会となる。子ども同士の関わり、関心が 見られる。安全な場で十分に遊び満足している。
- お母さん以外(保育士や他のお母さん)から褒められ認められる場面が支援センターで多く体験できる。自然に他の子どもたちとの関わりを体験する。喜びや痛さ、がまん、楽しさを感じることができる。
- 日ごろ家の中で遊んでいることが多い子が、保育園で体を使って遊んだり水遊びをしたり など季節感のある遊びも体験できる。
- 名前を覚えたり呼んだりできる友達、同じ年齢の子どもと関わって遊べる。いろいろな遊 具があり、自由に遊べる。活動量のある遊びも動きもでき、気分が発散できる。

表11 支援者にとってよかったこと(記述)

保護者対応の学び・スキルアップ	30
利用者に喜ばれる体験	24
子育ての理解・意識の変化	24
他機関との情報共有	7
地域とのつながり	4
その他	7

#### 記述の一部

- 親の本音、保育所や行政に対して日ごろから思っていることや感じていること、希望や要望など親の声を聞くことができ、関わり方への手立てとなった。
- 子育て支援をしていく中で実際に関わっていくと、今保護者が必要と感じていることを身 近に知ることができる
- 支援を通じて関わる機関が増えること、利用者とも地域ともつながっていけること。
- 保育ニーズの把握、子育てしている保護者との関わりができ、関わり方や声のかけ方が工 夫できるようになった。
- 保育士 (クラス担任) とは違い、母親の本音が聞けたり、母親の細かい悩みが聞けたりするので、クラス担任になった時親支援の幅が広がると思う。
- 地域貢献がなされていることが喜ばれている。地域の親の育成をはかり、つながりが深く なっている。
- 小児科医師、保健師、栄養士、救命救急士による育児講座、老人クラブの方々とのふれあい交流を通しての地域とのつながり。

### ⑧全体の感想

全体の感想として、これからの子育で支援や人材育成についての意見が多くありました。保育所が子育で支援の拠点として、重要な役割を担っていることを踏まえ、積極的に取り組んでいることがわかります。限られた設備・人材のなかで様々な工夫をしていることもわかります。しかし支援者の努力だけでは質の向上が難しく、課題も多くあることが示されています。特に支援者の人材育成として研修が求められていますが、正規の職員が少なく非常勤やボランティアが多いなかで維持していくには限界があることを指摘しています。支援の方向性は手厚く支援することではないとの気づきもあり、質を向上させていくために地域や他機関とも連携し、ネットワークを広げていくことが今後の課題であると認識していることがわかります。

#### 記述の一部

- 子育て支援の予算の充実・地域活動専門員の配置。資格化等が必要。
- 各保育所単位ではなく地域を含め人の力を借りて実施できるようにしたい。
- 職員の意識変革、スキルアップになるような有効な研修を益々実施してほしい。園内での 共通理解につながるような仕組みづくり。職員誰もが支援センター担当になれるように。
- 子育て支援をもっと組織化する必要がある。各種支援機関のネットワークづくり、支援者 の質の保証(最低学んでおくこと、働く場としての経済的基礎)質を高めるにはボランティ アだけでは無理がある。

- 保育園では日々の様々な業務と問題に追われ、活動の準備や話し合いにも思うように時間が取れないのが悩みです。保護者に問いかけられ、また気になる子どもの状態があってもなかなか時間がありません。若い保育士が多くなり、職員の半分がパート職員となり人材育成が一番の課題です。あまりにも提出書類が多いためサービス事業の拡大もこれでいいのか悩みます。
- 支援センターは地域になくてはならない重要な施設だと思います。ただ支援センターが手厚くなると母親自身が子育でをしなくなる(すべて任せられる、頼る)という方向に行くのではないかという思いも有ります。母親の息抜きの場所は確かに必要だと思いますが。現状を見ていると本当に支援の必要な親子がセンターを訪れているのか…は疑問な部分です。
- 支援センターはいわゆる生活支援センターという形にあるものと感じました。センターに 来られる利用者への対応、地域への出前保育、場を変えての公募による育児講座等、職員 も多忙であり、まだまだ未発達であること、人材環境を整備していかねばならないことを 感じています。
- これからニーズは多様になり、支援の必要な環境が増えていくであろうが、これに伴って 専門的なスキルが必要になってくるであろう。個々の支援者の能力も当然スキルアップし なければいけないが、やはり限界があるので身近なネットワークづくりが早急に求められ ている気がする。
- まずは近隣施設から市→県→国の支援センターが、方法はいろいろでも同じ方向性を持って親子を育てていけたらと思う。昔の日本のような人間関係が地域に広がっていくことを目指し、日々アピールをしていきたい。
- 保育士を退職された人で子育て支援に対して協力してくれそうな方に研修をし、育成をしていく。若い学生さんたちも実習や現場で子育て支援をカリキュラムで勉強していけるようにしたらよいと思う。

## おわりに

子育て支援センターの目的は児童福祉と親支援のための事業として展開されています。利用者アンケートの結果では、利用している保護者から「親にとっても子どもにとっても利用して良かった」という多くの感想がありました。このことは地域子育て支援拠点事業としての目的が、ある程度達成していることを表しています。支援者アンケートでは各施設において、様々な努力と工夫がなされていることがわかります。支援活動を通して保護者と子どもだけではなく実施している支援者にとっても良かったという意見が多くありました。これは支援者が積極的に利用者に関わることで、保育者としての意識や専門性の向上に役立っているということだと思います。

しかし支援者にとっては、問題や困難を感じていることが明らかとなりました。現在の利用

者だけでなく、利用していないあるいは利用できない人への支援を必要と考え、新たなアプローチを模索しています。また困難ケースへの対応が難しく、さらに専門的な知識や技術を求め、他の専門機関との連携やネットワークの重要性を感じていることがわかりました。

地域子育て支援拠点事業の位置づけのなかには、「常に活動を振り返り、子育て支援の専門性、 当事者性を活かした活動として、質の向上を図っていくことが求められる」とあります。今後 さらに支援の質を向上していくためには、支援者への研修体制をより充実させていく必要があ ると思われます。最後に多くの利用者と支援者の方に調査のご協力をいただきましたことを感 謝いたします。